

独立行政法人水産総合研究センターの平成25事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され独立行政法人評価委員会による平成25年度の総合評価がA評価であったこと及び評価委員会における指摘がなかったこと等から、評価結果による役員の交代等を行わなかった。
----------	---

2. 役員報酬への反映について

役員報酬への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され独立行政法人評価委員会による平成25年度の総合評価がA評価であったことを踏まえ、役員報酬の増減を行わなかった。
----------	--

3. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	25事業年度評価における主な指摘事項	平成26及び27年度の運営、予算への反映状況
資金等の効率的利用及び充実・高度化	職員を新規採用する際には長期的な観点から多様な人材を集める必要がある。	平成26年度に採用計画ワーキンググループを立ち上げ、中長期の採用計画を検討し、平成27年度新規採用については水産系大学へリクルート活動を行い、学卒者を主対象にした試験採用に加えて、学位取得者（ポスドク）を対象に選考採用を行う等の多様な採用を行い、若手研究者から専門性を持つ研究者まで、優秀な人材を幅広く確保できるよう努めた。
施設及び船舶整備に関する計画	完工した宮古庁舎だけではなく、西海区水産研究所八重山庁舎等の各施設の運転コストについては、削減に努めるべきである。	平成26年度の施工案件では、建築設備、機械・電気設備について、使用する部材及び機器には運転コスト削減となるよう省エネ製品を採用し、エネルギー支出を抑制できるよう努めた。